成蹊学園

SEIKEI

vol.68

SEIKEI GAKUEN 広報 2008 Winter

創立100周年記念事業
人を育む環境へ
新たな教育・学習施設が始動

Contents

2 新年を迎えて
4 新校舎・新図書館の利用状況
6 成蹊教育のいま
7 桃李の人々（杵屋巳太郎）
10 大学の近況
12 中学・高等学校の近況
14 小学校の近況
16 募金局からのお知らせ
19 2007年度の就職状況について
20 学園史料を読む

インタビュー 桃李の人々

杵屋巳太郎

長唄杵巳流七代目家元

重要無形文化財（人間国宝）認定おめでとうございます。

伝統の「保持」だけでなく「継承」させること それが人間国宝として与えられた使命だと 考えています

Series 学園史料を読む。

躋。

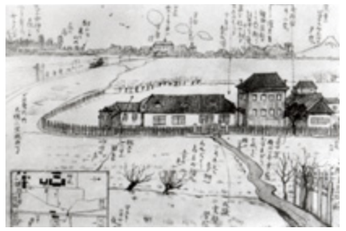
明治四十五年二月二十三日、池袋に成蹊実務学校の新校舎が竣工しました。中村春二が、中流以下の有為の少年に無償で教育を施し、国家・社会の中堅となる人材の育成をめざして設立したものです。中村は新校舎を得意の筆でスケッチしました（資料1）。右から成蹊園と中村の自宅、岩崎小弥太邸から蔵書と共に移築された二階建て本館（もとは岩崎家の図書館（※））、成蹊実務学校の平屋校舎が描かれています。中村はこの新校舎に「正直な役に立つ、末（すえ）たのもしき少年の養成所」と注を加えています。また学校正門と中村自宅門との間の椎の若木には「道のべの椎の一本葉蔭なお　まばらなども椎の一本」と歌を添えています。椎の若木の生長に実務学校の発展と生徒の成長を重ねたのでしょう。手前右には隣接する豊島師範学校の柵が見えます。

開校式を目前に控えた三月二十三日午前零時半、豊島師範学校寄宿舎から出火、新築の成蹊実務学校校舎はまたたく間に類焼、灰燼に帰してしまいました。この事件は『夕刊報知新聞』に速報されました（資料2）。本館二階から貴重図書や出版予定の『稲川遺芳』を持ち出すのが精一杯だったようです。しかし、中村は夜が明けるや再建を決意します。「二十三日直ちに本建築に着手し、一方仮教室も起工すれば遅くも四月六・七日頃には授業を開始する筈なり」との新聞記事からは中村の決断の速さがうかがわれます。そして実際わずか一週間で仮校舎を完成させ、予定通り四月二日に入学式、翌三日には多くの来賓を招待して始業式（開校式）を行いました。

今村繁三は、このとき中村が「たくましい鉄人に変わった」と評しています。「どんな困難にあっても立ち上がれる人間を作らなければならない」。断食や凝念など、成蹊における鍛錬教育は新校舎の火災という試練から出発しているのです。中村は、始業式を挙行した四月三日を実務学校の創立記念日としましたが、三月二十三日を「火災（焼失）記念日」としてお祝いの行事をする一方、運動場を整備するなどの記念作業を行いました。三月二十三日は、今日の成蹊学園の礎である成蹊実務学校がまさしく無から出発した日、成蹊教育の誕生日であるといえます。平成十七年、学園では創立者中村春二の建学の精神を未来へ継承するために、火災記念日を「建学の日」と定めました。この日は成蹊教育の原点である鍛錬教育・作業教育を記念し、教職員・学生が学内外で清掃活動にあたっています。

（成蹊学園史料館　山川晴美）

建学の日―火災記念日―



（上：資料1）中村春二がスケッチした火災前の成蹊実務学校
（右：資料2）『中村春二スクラップブックNo.4』より、明治45年3月23日付『夕刊報知新聞』記事

※岩崎弥之助が収集した貴重な和漢書を蔵し、氏の漢学の師であり、歴史学者で『大日本編年史』を編さんした重野安繹（しげのやすつぐ）が研究に没頭したといわれる由緒ある岩崎家の図書館であったと新聞に報じられています。

100th ANNIVERSARY 1912-2012

成蹊学園広報

2008年1月10日 発行／学校法人 成蹊学園総務部広報課　東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話（0422）37-3517
URL http://www.seikei.ac.jp　e-mail koho@jim.seikei.ac.jp

新年を迎えて

激動の二〇〇七年、そして二〇〇八年へ

皆さん、明けましておめでとうございます。ご家族おそろいで、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

昨年は近年でもまれに見る波乱に富んだ年であったように思います。参議院選挙での民主党大勝により、いわゆる「ねじれ国会」となり、政治の停滞を招くこととなりました。またこれに関連して、初のわが学園出身の安倍総理が辞任されたことも驚きでありました。

経済の面では、原油価格の高騰、それに伴って起こっている原料価格の上昇、一方でエネルギー多消費型経済からもたらされる環境破壊と温暖化現象が、一刻の猶予も許さないほどの深刻さで我々人類に迫って来ています。

金融面ではサブプライム問題が世界経済を暗転させました。この問題は極めて根が深く、世界的な金余り現象を背景として、金融が本来あるべき保守的な健全性を忘れ、過剰な借り入れに走る傾向と、金融資産を証券化し、複雑にパッケージ化して売買する市場主義ともいうべき傾向の産物と思われますが、どこにどれほどの不良資産が眠っているか、容易に推計できないような仕組みになっていることもこの問題を複雑にしていると思われます。

これまで世界を支配し、揺るぎないとまで思えた世界の秩序――パックスアメリカーナの構図がもろくも崩れ、米国の外交も行き詰まって、解決の糸口さえ見出せないように思われます。

今の日本が抱える問題

こうしたなかにあってわが国の現状を見ますと、深い閉塞感が漂っているのを否定できないのではないでしょうか。わが国社会に広がるいろいろな格差の問題もなかなか解決の糸口が見出せません。何よりも社会の基盤を形作る教育問題も、その改革の方向性を掴みきれぬまま打ちすぎているように思います。教育の問題は学校に限らず、家庭や友人関係のレベルに及ぶと思われますが、ネット社会の急速な進展という、阻止できない現象のなかで、我々もどうすべきか、進むべき方向に確信を持てないことこそがもっとも大きな問題ではないかと思われます。今こそ「一隅を照らす」精神で、我々の身の回りから、小さな改善を進めていくしかありますまい。

着々と進行する「新・成蹊創造プラン」

成蹊学園は中村春二先生の建学の理念を持ち続けている数少ない教育機関だと思います。目下二〇一二年の創立一〇〇周年に向けて新・成蹊創造プランを実行中であり、万全とまでは到底行きませんが、まずは着々と進行しております。学生が自ら学ぶ場として重要な役割を果たす情報図書館が最初のプロジェクトだったわけですが、完成以来、学生の利用率が以前の四割増しに上がり、個人の研究だけでなく、ゼミや小研究、ひいては学生同士の親睦の場としても活用され、期待通りの成果をあげつつあります。中学校ホームルーム棟の再開発も無事に完成し、教員と生徒、生徒と生徒のふれあいの場も充実し、先日着工した高校ホームルーム棟の再開発と相まって、中高一貫教育のための「場」が完成します。

小学校校舎の再開発も成蹊出身の坂茂氏の設計監修の下、ユニークな校舎の完成に向けて順調に進展しています。小学校はハードの完成に先立って二十八人四学級の少人数教育に着手したところです。

ハードの面はそういったところですが、ソフト面では一〇〇周年の最大の眼目である「国際教育センター」も二〇〇四年の発足以来歴代センター長が取り組んでこられた結果、ようやく成果をあげてきたように思われます。

法科大学院も二年目の司法試験で十六名の合格者を出し、まずまずの成績であったかと思います。

「成蹊教養カリキュラム」の確立をめざして

これは当初から一〇〇周年記念事業としては予定されていなかったものですが、これこそ一〇〇周年記念事業にふさわしいと思われるプロジェクトが大学で議論されております。本学理工学部の坪村教授が委員長となり、纏められた「成蹊教養カリキュラム」です。これは学部によらず、すべての学生が一定の水準まで修得しておくことが望ましい、と考えられる内容を備えたカリキュラムであります。これは一口に言うと「リベラルアーツ」であり、よく戦前の旧制高等学校の教育が無くなってしまったことを嘆く方がおられますが（実は私もその一人）、まさに旧制高等学校がめざしたリベラルアーツの教育をめざすものと思われます。

昨年のこの稿で学校の意思決定のあり方に関する検討がなかなか進まないと書いた記憶がありますが、このカリキュラムの開設については「大学評議会」で決せられたと伺っております。これで意思決定機構が一新したというのは適当でありませんが、少なくとも大きく一歩前進したのは事実であり、非常に喜ばしいこととして、皆さんにご報告いたします。

このようなことを積み上げていけば、効率的かつ合目的的な意思決定がなされる体制が、徐々に形成されていくことになろうと思っております。

「成蹊教養カリキュラム」の開設までには、新しくその一環として設ける科目と、すでに実施している科目が重複した場合どう折り合いをつけるか、それでも新規に加わるコストをどう捻出するかなど、課題も多く、実現までにはまだまだ乗り越えねばならないバーは高いと思われますが、何とか問題を克服して、二〇一〇年度から実現したいと思っております。

恵まれた環境への感謝と、高い志を

成蹊学園に学ぶ学生はその環境、教員、友人、どれをとっても非常に恵まれた立場にあります。学校生活が楽しいことは結構なことであり、その幸せはいくら感謝しても足りない位ですが、ただ楽しいというだけでは十分ではありません。学生諸君は感謝とともに、孤高の志を高く持ち、その志を日々実現に近づけて行くよう、努力を忘れないでください。本年が諸君にとって実り多い年であるよう祈念して新年の挨拶といたします。

理事長
岸 曉（きし さとる）

【略歴】

1950年　成蹊高等学校（旧制）卒業
1953年　東京大学経済学部卒業
　　株式会社三菱銀行入行
1998年　株式会社東京三菱銀行頭取
1999年　成蹊学園理事
2000年　株式会社東京三菱銀行取締役会長
2002年　成蹊学園理事長
　　株式会社東京三菱銀行相談役
　　（現・三菱東京UFJ銀行相談役）

創立100周年記念事業

人を育む環境へ
新たな教育・学習施設が始動

成蹊教育のさらなる発展をめざす、新校舎・新図書館の利用状況

大学情報図書館について

成蹊大学図書館は「滞在型図書館」を進化させた「ヘビーユーザー型図書館」をめざしています。

これまでのように「図書館に勉強にいこう」という方だけでなく「図書館にちょっと寄ってみよう」という方にも足を運んでもらうため、二百六十六室のクリスタルキャレル（個室閲覧室）や、一階の入り口前に飲食ができるリフレッシュエリアを用意し、利用者は図書館の中で一日を過ごすことができます。

利用者も通常の利用期は旧図書館の一・四倍、夏期は二倍に増えています。授業のない期間の利用促進をめざした「ヘビーユーザー型図書館」の効果が数字に表れているといえるのではないでしょうか。今後も資格をめざしている方などに一日中使っていただける図書館でありたいと思っています。

学生からの反響はさまざまですが、利用者、貸出件数が増えていることが一番の反響だと思います。旧図書館に比べ座席を二百席以上増やしていますが、利用者が四十％増えたために座席が足りなくなるという状況になっており、二〇〇七年に百席を追加しました。

プラネット（グループ閲覧室）については学生が有志で使う場合には予約不要としています。旧図書館では一部屋につき一グループという風に使用をしていましたが、このプラネットでは一部屋に二グループ、三グループという利用をしていただければと思います。一番大きなところでは二十四名が利用できるプラネットがありますが、八人のグループであれば三組使えます。そういった形でフレキシブルに使えるよう進めています。

クリスタルキャレル

今後は非来館型のサービスの充実をめざしたいと思います。来館してよし、来館しなくとも使える図書館。例えば電子メールによるレファレンスの受付、将来的にはＷＥＢ上でのレファレンスですね。また、貸出の延長手続きをＷＥＢ上でできるようにしたいと思っています。これによって、帰郷している学生、返却日当日に大学に来れない方々などが、自宅からでも貸出延長を行うことができるようになります。このサービスは学生のみならず、卒業生の方にも活用していただけるサービスだと思っております。現在、四月からのサービス開始をめざして検討中です。

（大学図書館事務長　近藤　茂）

学習空間とリラックス空間があるので、活用の幅が広がります

鎌田 奈美さん
文学部英米文学科３年
山梨県立甲府西高等学校出身

図書の閲覧のほか、資料探しやレポート作成のため、空き時間や放課後によく利用しています。気に入っているのはクリスタルキャレル。防音設備により集中できますし、パソコンも使えるので、インターネットによる情報収集も可能です。図書館のシンボル的空間であるプラネットは、ゼミ（演習）やサークルのミーティングで利用しています。普通、図書館内で話をすることは考えられず、最初は戸惑いましたが、宙に浮いている感じが楽しくて好きです。

メディアルームにはCDやDVDが豊富にあり、最新の洋画も鑑賞できるのが魅力です。また１階のリフレッシュエリアでは、飲み物を飲みながらおしゃべりできるので、勉強で少し疲れたときに友だちと息抜きする空間として活用しています。

中学・高等学校 再開発について

各ホームルーム棟は生徒の発達段階に合わせ、中学校は「温かみ」、高等学校は「機能性」をコンセプトに設計されています。

―新中学校ホームルーム棟

新中学校ホームルーム棟（以下新棟）は床など建物の多くに木材を使用しています。さらに東西に教室を配置し、中央には一学年が集まれる広さの「フリースペース」を設けています。高等学校校舎建築工事中は、こちらの校舎の二階以上を高校生が教室として使用していますが、同じ学年の生徒同士でお互いの顔が見える、コミュニケーションを図る場として、生徒の評判も上々です。さらに一階の生徒ホールと職員室の間には「コミュニケーションスペース」も設置し、教員とのコミュニケーションの場となっています。

経験別に分けて授業を行う英語などで利用する「分割授業」用の教室も新たに設置しました。各教室には大型の液晶ディスプレイ、ＬＡＮ端子が備えられ、視聴覚教室に行かなくてはならなかったような授業が各教室で行えるようになりました。現在高等学校の授業でかなり利用されていますし、中学校の授業でも活用されることと思います。

新中学校ホームルーム棟外観

液晶ディスプレイ、ＬＡＮ端子が備えられた教室

フリースペース

―新高校ホームルーム棟（二〇〇八年秋竣工予定）

高等学校は少人数での分割授業の割合が高まっており、今度改修する中央館と含めて、分割授業用の教室を多数確保することにしています。また、二クラス一緒に授業を受けることができる合同授業用の教室や大型液晶ディスプレイやＬＡＮ端子の装備など、本校の特色である多様化する授業形態に対応しています。

さらに、生徒の多様な進路に対応する進路指導室、個人との面談に活用するための面談室も充実させています。中学校にあるようなフリースペースは高等学校では設けていませんが、生徒の特質である年齢とともに高まる独立性も考慮してのことです。教室の並び方も、一列に並ぶ形をとり、独立性を高めています。これによってより集中して勉強ができる環境をめざしています。

いずれの建物も安全面、防犯面に加えて環境面にも配慮した設計になっています。

（中学・高等学校副校長　吉崎純二）

大学一号館・大学二号館について

長年親しまれてきた大学図書館は、大学一号館に改修されました。一階にはキャリア支援センター、二階には国際教育センター、教職課程指導室、日本語教員養成・社会調査士課程室などがあり、学生が直接アクセスして進路相談や留学相談ができるフロアになっています。ガラスの壁面が多く、部屋の中が見えるのでアクセスしやすいと好評です。

また、三階のアジア太平洋研究センターを訪れる内外の研究者や企業の採用人事担当者などに向けて、玄関ロビーには、学園の歴史や創立者を紹介する展示スペースが作られています。連絡通路で行き来できる大学二号館は、二階から四階までの三十七室が全て演習（ゼミ）室に改修され、一階西側には新しく玄関とエレベーターホールが作られました。ゼミ室はガラス壁に室内ブラインドが設置され、フロアごとにオープンスペースもあって、明るく活気のあるゼミ棟として、授業の合間にも、休みなく続くゼミや課題の準備をする学生の利用が見られます。

（財務部管財課）

留学相談カウンター

2号館演習室

大学・経済学部

経済地理学研究

小田 宏信（おだ ひろのぶ） 経済学部教授

企業の空間行動を探る〜足下から俯瞰する世界像〜

成蹊大学経済学部経済経営学科教授。理学博士。
成蹊中学・高等学校、立命館大学文学部卒業、筑波大学大学院地球科学研究科単位取得退学。豊田短期大学専任講師、筑波大学地球科学系専任講師などを経て、2006年4月より現職。著書に、『現代日本の機械工業集積（2007年経済地理学会賞受賞）』、『変動するフィリピン（共著、近刊予定）』、『空間の経済地理（分担執筆）』など。代表論文として、Alternative Dimensions between Marshallian and Fordist Spaces in the Japanese Manufacturing Development。 写真は、大田区西六郷の町工場にて。

経済経営の地理学

地理学は広い意味での環境の科学です。人間社会は未知の大地を知り、われわれの活動にふさわしい形で大地を改変し、都市を造営して交通路網を構築しました。環境への働きかけの結果として、地表上にさまざまな〝かたち〟が生じてきたのです。産業活動においても、地表空間上に事業所をどのように展開し、どのように組織するかが問題になります。

自動車王ヘンリー・フォードは、地理的センスに秀でた人物でした。デトロイト一極集中の生産システムを改め、分工場を張り巡らせていくのですね。生産効率に加えて分散立地のマクロ経済的な意義も見逃しませんでした。二十世紀日本の企業家も、フォードに影響されて地理的編成には敏感でした。豊田喜一郎は三河地方に一極集中の生産体制を構築し、松下幸之助はまさにナショナルな工場展開を繰り広げていきました。

二十一世紀に入って、国内における工場立地がこれまでとは違った動きを呈しています。シャープの亀山工場をはじめ、少し前までは予想もつかなかった大都市圏に新規工業立地が進んでいるのです。開発と生産の地理的近接性こそ競争力の一つの源泉だという認識が広がりはじめたためです。

地域に根ざしたモノづくり体系

私のメインフィールドは機械工業の集積する地域です。二〇代の頃に目をつけたのがモノづくりの基本となる金型製造業でした。ME（※）化の進展下、熟練技能が設備に代替されることで工業地域の外部性に依存する必要がなくなるではないか、これが研究の出発点でした。ところが、生産現場を歩いてみると地域集積の役割が終わったとは決して言い切れない。あの不況下、伝統ある品川区の型屋さんが「仕事に困らない」と豪語していました。機能部品用の金型に関しては、そこは世界で最も競争力を備えた場だったのです。高精度で削り出す職人技のみならず、特化した関連技術が近場にあって、地域に埋め込まれた生産システムを形成していたからです。

その後、内外の工業地域をみつめてきましたが、最近、久々に東京城南の町を歩いています。大田区の工場数は全盛期に比べて半減しています。しかし、そこに残されている町工場の力強さには目を見張るものがあります。工作機械のコアとなる駆動部品が、依然として小零細工場のネットワークによって作り続けられているのですね。しかも、地元の工業高校と町工場の連携によって、次の世代の職人たちも育ちつつあります。「メイドイン蒲田のカリスマ職人を、この土地の力で作り込みたい」とは、若き経営者の弁。心強いばかりです。

「大田区を見れば、日本が、そして世界がわかるんだ」と、ある人から教えを受けて、この町を原点に座標軸を広げてきたつもりです。その意味で原点回帰を忘れないようにしようと思います。

大田区の町工場にて、大型のマシンニングセンターを前にレクチャーを受けるゼミ生。

草の根の成蹊地理教育

経済学部における地理教育の役割、それはグローバル／ローカル双方の空間秩序を知ることです。ビジネスパーソンが確固たるメンタルマップを描いていなければ、企業は「限定された合理性」のもとでしか空間的に行動できません。一方で、地理学にはフィールドワークを尊重する伝統があります。私自身、自分に鞭打ってでも、諸地域の現場をみてきたことは、かけがえのない財産だと思っています。ですから、ゼミ活動でもなるべく現場を見て聞いて歩く機会を作るよう努力しています。地域を歩けば、企業論理だけでなく、市民生活の論理も、労働者の論理も、さまざまな協同の論理も発見できるはずです。このようにして作り上げた卒業研究は、それがどんなに草の根的なテーマであっても、やがて開花するであろうオンリーワンの成果だと思うのです。

かつて成蹊学園の地理教育を作り上げた伊藤隆吉先生のゼミ報告書が本学図書館に残されています。当時の吉祥寺商店街を丹念に調べ上げた、いまとなっては非常に貴重な文献です。本学園の地理教育の伝統を引き継いで、私のゼミもかくありたいと思うのですが、如何せん、学年暦は窮屈になるばかりで、思うようにゼミ生を連れて外を歩けない——昨今の日本の「学びの現場」の一面でもあります。

※マイクロエレクトロニクス

群馬県桐生市にて、繊維技術と繊維工業地域の発展を学ぶ。

長唄杵巳流七代目家元

杵屋 巳太郎

Mitaro Kineya

2007年度、重要無形文化財（人間国宝）の認定を受けたのが、長唄杵巳流七代目家元の杵屋巳太郎さん。尾上菊五郎劇団音楽部で代表部長を務めるなど、長唄三味線の第一人者として活躍されています。伝統ある邦楽の継承・振興への意気込みと、成蹊学園時代の思い出を語っていただきました。

伝統の「保持」だけでなく「継承」させること それが人間国宝として与えられた使命だと考えています

―成蹊学園で学ばれたのは、小学校三年生からですね。

杵屋　昭和十二年生まれですから、小学校に入る頃は、戦争の真っ最中でした。当初、中野の公立小学校に入学したのですが、戦火を逃れるために、すぐに親戚を頼って鹿児島に疎開しました。ところが鹿児島も大空襲に見舞われ、埼玉に移り住みました。終戦を迎え、東京に戻り、麻布小学校に入ったのですが、成蹊小学校で編入試験が行われることを知り、小学校三年生から通うことになったのです。わずか二年間あまりで、四回も転校したことになります。

―体が弱く休みがちな私を補講で温かくフォロー

―入学して、どのような印象を持たれましたか。

杵屋　当時、授業が行われていたのは、木造平屋建ての西校舎でした。私たちは「ウエスタン」と呼んでいました。冬はすきま風が吹き込んで、とても寒かったことを覚えています。まだみんなが貧しく、冬でもシャツ一枚だけの子どももいました。ちょうど野球が流行り始めた頃ですが、まともな道具は入手できず、ボールもグローブも手作りの布製でした。給食もなく、弁当持参で、石炭を炊くダルマストーブの回りに弁当箱を置く金網の棚が設けられていました。ストーブに近すぎると黒焦げになるし、遠いとちっとも保温効果がないので、けっこう置く場所には気をつかっていましたね。小学校五年生の時に、ガラス張りの明るい二階建ての新校舎ができた時は、もう夢のようでした。

―印象に残っている先生はいらっしゃいますか。

杵屋　小学校の担任は、香取良範先生で、毎朝、ホームルームの時に、その日のニュースを生徒に発表させる指導をされていました。四〜五本の記事を読んで、準備はしておくのですが、出席番号順に指名されるので、私（本名・宮澤雅之）の番になる頃には、用意しておいたニュースは全部発表されてしまいます。仕方なく「なんにもありませんでした」と言うと、先生がジロリと睨む（笑）。それがとても怖くて、子どもなりに工夫して、相撲やプロ野球の結果など、他の友人たちがあまり興味を持たないようなニュースを発表するようにしました。この指導によって、新聞を読む習慣が身につきましたから、素晴らしい教育だったと思っています。

小学校の作業の時間を担当されていた大久保捨蔵先生も印象に残っています。用具の掃除をしたり、畑の草むしりをしたりしながら、生えている植物の名前なども教えてもらいました。ある時、先生が雑草を抜いて「これはヒメジオンと言

れました。当然、先生は冗談で言われたわけですが、私は生真面目にしっかり覚えていき、次の授業で発表して、先生が目を丸くされたのを覚えています（笑）。それからも欠席がちな状態が続いたのですが、夏休みに一週間、遅れを取り戻すために、再び補講をしてくださいました。羽深先生の暖かいフォローのおかげで、英語は大好きな教科になりました。

その後、次第に体力がつき、校内大会でリレーの選手を務めるまでになりました。当時から盛んだったラグビーも好きで、高校最後の体育の授業では、「最後だから、好きなスポーツをやっていいぞ」と言われ、雪が積もっていたにも関わらず、全員がラグビーをやろうと言い出し、泥まみれになったことを覚えています。

美術部でキャプテンを務め アトリエが溜まり場に

―部活動は何をされていたのですか。

杵屋　中学校から高校までの六年間、美術部に所属し、キャプテンを務めました。残念ながら今はなくなってしまいましたが、アトリエが私たち美術部員の溜まり場でした。水彩を中心に、ペンテル画、エッチング、油彩にも取り組みました。加藤久幹先生の指導のもと、「大潮展」という展覧会に二十号の油絵を出品したこともあります。高井戸の風景をテーマにした作品で、東京都美術館に飾られ、誇らしい思いでいっぱいでした。

また、文化祭の際に正門の飾りつけをするのも、美術部の担当でした。グラウンド裏のモミの木枝を切り出して、正門を覆い、看板を掲げるのですが、前日は徹夜作業になり、アトリエに泊り込みました。夜中にパンを買ってみんなで食べたり、教員室に積んであった大判模造紙を持ってきて、それにくるまって寒さをしのいだことも、懐かしい思い出です。

現在でも、美術部の仲間たちとは「成蹊アーティストクラブ」（ＳＡＣ）という親睦団体を結成して、交流が続いています。毎年夏、日本橋公会堂で、私の長唄の弟子たちの発表会を開催していますが、そのロビーの一角で、美術部ＯＢの小品展も行っています。「成蹊コーナー」も設けて、会話を楽しめるようにしています。

高校三年生で襲名披露し 三味線の稽古に没頭

―大学時代で印象に残っていることをお聞かせください。

杵屋　高校二年生の時に父（六代目杵屋巳太郎氏）が亡くなり、一周忌の日に後を継ぐことを決意しました。イイノホールで開いた襲名披露では、成蹊グリークラブが校歌を歌い、花を添えてくれました。プロとして独り立ちしなければなりませんから、その後は三世今藤長十郎師・綾子師（両者とも、後に人間国宝）のもと、一日十時間以上、三味線の稽古に没頭しました。そのため、とくに大学三年生以降は、キャンパスに通うのは週一回、ゼミのある金曜日だけでした。友人たちからは「金曜日の男」と呼ばれていたほどです。私が入ったのは佐々木昌義先生のゼミでしたが、そんな私の特殊な事情に先生も理解を示してくださいました。私の方も、遊んでいるわけではないからと、けっこう堂々としていました（笑）。

―在学中に学園で演奏されたことはありますか。

杵屋　高校三年生の文化祭の時、小講堂で三十分間かけて、長唄「綱館の段」をお聴かせしました。羅生門で渡辺綱に右腕を切られた茨城童子という鬼人（酒呑童子の配下）が、綱の伯母に化けて、右腕を取り返しにくる有名な物語で、三人の唄と三味線を付けて、ナレーションも入れて演じました。

大学入学後も、成蹊会主催のクリスマス会で「邦楽の夕べ」が企画され、三味線を五曲弾いたことがあります。

協調精神の素養を 身につけた大学時代

―現在の仕事に、成蹊学園で学ばれたことが生きていると感じられることはありますか。

杵屋　先ほど申し上げたように、高校三年生で本格的な芸の道に入りましたから、正直なところ、大学に進学すべきかどうか、かなり悩みました。大学に進むのなら、すでに長唄科が設置されていた東京芸術大学で、専門的に勉強した方がいいのではないかとも考えました。けれども、親戚の人たちから成蹊大学への進学を強く勧められたのです。「成蹊大学の勉強は、長唄と関係ないじゃないか」と抵抗しましたが、「そうではない。成蹊大学で豊かな大学生活を送ったという経験自体が、将来、きっとプラスになる」と言われました。この説得を聞き入れて、成蹊大学に入学して良かったと、今では感謝しています。

というのも、伝統芸能の世界は、個人の力だけでは成立しません。大勢の力が結集することによって、素晴らしい舞台になります。協調精神やリーダーシップ、および数多くの人々とコミュニケーションを図ることが、とても重要になります。その素養を大学時代に身につけることができたと思います。

―二〇〇七年度、重要無形文化財（人間国宝）の認定を受けられました。名実ともに第一人者のお立場として、今後の活動方針をお聞かせください。

杵屋　伝統芸能の世界に生きる人間は、皆がそれぞれ、一生懸命に研究錬磨して、芸を磨いています。けれども、重要無形文化財に認定された以上、自分だけが精進していればいいというものではない。それに加えて、立派な後継者を育成する使命が与えられたと解釈しています。もちろん、簡単なことではありません。理屈で教えようとしても無理で、まず自分できちんと演奏して、それに共鳴した人がこんなふうに三味線を弾きたいなと思うようにならなければ、芸を伝えることはできません。「桃李もの言わざれども、下自ずから蹊を成す」の成蹊精神に通じるところもありますね。

―芸を伝えるという意味では、小学校での演奏活動も長く続けていらっしゃいますね。

杵屋　二十二歳の頃から、仲間五名ほどと、各地の小学校を巡回して、子どもたちに三味線の生の音を聞いてもらう活動をしています。師匠には、まだ修行中の身なのに早いと怒られましたが、私としては、絶対に必要な活動だという強い思いがありました。

なぜなら、その当時の音楽の教科書は、日本の伝統音楽に関する記述は１ページ程度で、邦楽のレコードを聞くこともなければ、和楽器に触れる機会もないといった状況だったからです。音楽教育から完全に取り残されていたのです。

けれども、日本には伝統的な文化行事が数多く残されており、祭り囃子など、意識していなくても、日常生活の中に溶け込んでいる邦楽は確実に存在します。その魅力を日本人が見失ってしまうのは悲しいことです。もちろん、洋楽を聞いたり、ピアノ、バレエのレッスンに通うことを否定はしません。私自身、小学生の頃には、ショパンに夢中になっていたこともあります。ただし、日本の伝統的なものにまったく興味がなく、知らないというのでは、やはり寂しいでしょう。

そこで、小学校を巡回して、子どもたちに邦楽に触れる機会を増やすことで、親しみを感じてほしいと考えたのです。それから五十年。私たちの願いが通じたのでしょうか、現在は、少しずつ音楽の授業で、三味線、琴、尺八、和太鼓など、邦楽器を取り入れるケースが増えているようです。

振り返るとしみじみ分かる 成蹊学園の価値

―最後に、成蹊学園の後輩たちに向けて、メッセージをお願いします。

杵屋　おそらく、いま成蹊学園で学んでいる人たちは、あまりにも身近な存在すぎて、学園の価値が実感できていない面もある気がします。富士山と同じようなものです。中腹にいたら、高さは分からない。けれども、下山して、離れるほどに、とても高い山の懐に抱かれていたことが分かります。それと同じで、卒業した後、ふと振り返ると、ありがたみがしみじみと感じられます。そんな学園の魅力を、今後も大切にしてほしいと思っています。

（広報課）

七代目　杵屋 巳太郎（ななだいめ・きねや・みたろう）

本名・宮澤雅之（みやざわ・まさゆき）。1937 年、東京都生まれ。成蹊小学校、中学・高等学校を経て、成蹊大学政治経済学部卒業。1956 年、18 歳で七代目杵屋巳太郎を襲名し、長唄杵巳流家元を継承。1971 年、尾上菊五郎劇団音楽部に入部し、現在、音楽部長・立三味線を務める。1994 年、前年のリサイタルにより、芸術祭賞（文部大臣賞）を受賞。邦楽コンクール作曲第２部（三味線）で第１位に入賞するなど、作曲活動にも精力的に取り組んでいる。2007 年、重要無形文化財（人間国宝）の認定を受けた。

大学の近況

学長と語る会 ～社会活動支援を一緒に考える 編～

学長と成蹊生の交流プログラム「SEIKEI架け橋プロジェクト」の第三弾として今年度からスタートした「学長と語る会」の第二回が十一月十三日、学長室において開催されました。

今回は、「社会活動支援を一緒に考える」をテーマに、今年度よりスタートした社会活動支援奨学金の給付を受けた三団体が参加し、開催されました。国際協力、環境活動、フェアトレードといった活動趣旨も規模もさまざまな三団体から各二名ずつ、計六名の参加者を迎えて行われた座談会では「ボランティアに興味のある学生が集い、情報交換を行えるような場所や機会を設けてほしい」といった要望や、「小学校から大学までひとつのキャンパスにあるこの環境を生かして、大学生による小学生、中高生への『社会問題を考える』授業や講演会を開催してみたい。自分たちが社会活動を通じて学んだ「考える」ことの大切さを、小さいうちから身に付けてもらいたい」といった提案がありました。四十五分という当初の予定時間を延長するほど熱のこもった意見交換となった会終盤には、学長から、「大学としても皆さんの活動を後押ししていきたい。二〇〇八年四月にボランティアセンター設立のための準備室が設けられる予定があり、みなさんのこうした意見を積極的に反映していきたいのでこれからもぜひ協力してほしい」といった言葉が贈られました。

学生就職活動事情 ～キャリア支援センター所長より～

民間企業の採用活動は年々早期化する傾向を見せており、学生は三年生の秋から本格的な就職活動の準備にとりかかっています。企業の説明会やセミナーなどはすでに十月から頻繁に行われ、不安や焦りを感じている学生も散見されます。外部の企業セミナーに忙殺されて大学に足が向かなくなるような事態を警戒しなければなりません。キャリア支援センターでは、学生の不安を解消し、バランスのとれた学生生活を維持しつつ適度な緊張感をもって就職活動を開始できるような環境を提供することに努めています。今年度から例年二月に実施していた就職支援のための学内企業セミナーを、十一月、十二月にも実施し、グループガイダンスなどの支援活動も例年より十日程度早めて実施しました。また同時に、学生にはこの時期の就職関係行事よりも授業や定期試験が優先であることを強く呼びかけています。必要以上に焦ることで自分の学生生活を乱してしまったのでは、平常心で就職活動を行うこともできなくなるからです。

就職活動のなかで学生が陥りやすい罠として、乏しい情報に基づく思い込みや、過度にインターネットに依存した「ネット引きこもり型」就職活動などが挙げられます。このような弊害を防ぐために、キャリア支援センターでは、①採用筆記試験対策②自己分析と自己アピール文の仕上げ③過去の就職活動記録の熟読④業界研究や企業研究などをじっくりと腰を落ち着けて行うように指導をしています。さらに最も重要なことは自分の考えを人に話し、人のアドバイスに素直に耳を傾け、常に自分の位置を確認することであり、学生には気軽にキャリア支援センターに足を運んで個別相談を行うように強く呼びかけています。

また、この時期は保護者の方々も何かとご心配のことと思いますが、父母懇談会などでは、就職活動の大変さをご理解いただき、①押し付け②過干渉③無関心の三つを「やってはいけない三か条」としてお知らせしています。

（キャリア支援センター所長　北川 浩）

～内定獲得学生の就職活動体験記より～

内定先 三菱東京 UFJ銀行

私は三年生の十二月まで、体育会蹴球部の活動に明け暮れる毎日でしたが、部活の先輩を訪問するなどして、実質的な就職活動を始めました。エントリーシートは早めに文章を書く力をつけ、さまざまな人に見てもらい厳しい批評を受けることが重要だと思います。金融業界には文学部から理工学部までさまざまな人がいて、内定を得るにあたり、特に深い金融の知識が求められるわけではありません。将来的には国際的な分野で活躍したいので、商社への就職も考えましたが、成蹊の数多くの先輩が応援してくれた銀行に進むことを決めました。今振り返ってみれば、何よりも早めの準備、行動、情熱、キャリア支援センターへの相談、そして笑顔（これが重要です！）で就職活動を乗り切ることができ、納得のいく結果を得ることができました。私がこれまでリクルーターをはじめとする先輩や大学に助けていただいたように、卒業後は後輩の就職活動の協力をしていきたいと思います。

（経済学部四年　男子）

高校生による大学見学

本学では、高校生の大学見学を積極的に受け入れています。十一月十五日現在、延べ二十八校、八百六十二人の高校生と保護者が、総合学習、進路指導の一環として来校しています。参加はおもに一、二年生で、初めて大学を訪れる生徒も多く、いろいろなところに興味を示しています。

大学見学を通じて高校生活と大学生活の違いを認識し、進学に対する目的意識を向上させるなど、高校生にはとても良い経験になっているようです。

見学の内容は、情報図書館をはじめ、パソコン教室などの施設見学や授業体験、入試センター職員による大学の概要や入試制度についての説明などです。

高校生の感想を見ると、「先生との距離がとても近い、こんな環境でぜひ勉強してみたい」といった、本学の少人数教育を評価する声や、「緑豊かな、ゆっくりとした雰囲気に好感を持った」などキャンパスの美しさを評価する声が多数あります。

大学見学は、進路を決定する上で大きな要因になると考えています。大学見学を通して、本学の魅力や大学での充実した学びを伝えていきたいと思っています。

大学見学に関するお問い合わせは左記までご連絡ください。

（入試センター　〇四一一・三七・三五三三）

経済学部学生特別表彰式

経済学部では、学生の学業に対するモチベーション向上を目的に、成績・人物・卒業研究などにおいて優良であると認められた学生を表彰しています。十月十日、二〇〇七年度前期成績優秀者を対象とした経済学部学生特別表彰式が行われ、計六名の学生に経済学部長より賞状および副賞（図書カード）が贈呈されました。

本制度はじまって以来の最多受賞者に対し、経済学部長からは喜びの言葉と今後の活躍に対する期待の言葉が贈られました。

四大学運動競技大会

第五十八回四大学運動競技大会（四大戦）本戦が十月十九日から二十一日までの三日間、本学を会場校にして開催されました。四大戦は、さまざまな分野で交流のある成蹊大学、武蔵大学、成城大学、学習院大学がスポーツを通じて親睦を深める目的で毎年開催している伝統ある行事です。今回は、「烈豪～Let's GO～」という言葉をスローガンに熱戦が繰り広げられました。

本学は、総合順位第二位となり、惜しくも総合優勝は逃しましたが、本戦最終日にはトップの学習院大学に一点差まで詰め寄る活躍をみせ、開催校の意地を見せました。

また、十月三十日には、四大戦で活躍し、優秀な成績を収めた団体を表彰する「成績優秀団体賞状授与式」が本館前にて行われ、秋晴れの下、学長よりそれぞれの団体へ賞状が授与されました。

駅伝

本館の垂れ幕

欅祭

第四十六回欅祭が、十一月二十四日、二十五日の両日、「百花繚乱」というテーマで催されました。

中庭に設営されたステージでは学生たちの迫力あるライブが繰り広げられ、大変な盛り上がりをみせました。また、欅祭本部企画の「運命のルーレット廻して　白熱！四百人すごろく」では、全員参加型の成蹊オリジナルすごろくが行われ、参加者たちはルーレットがまわるたびに大きな歓声を上げていました。

展示催物六十三団体、模擬店五十四団体による趣向を凝らした企画が並び、天候にも恵まれて、二日間とも多数の来場者で賑わいました。

博士学位授与式

十月二十九日、学長室において博士学位授与式が行われました。

◆博士（工学）　楊 進

博士論文名「バイオマス直鎖多糖の化学修飾による機能性多糖の合成」

学位授与式のご案内

二〇〇七年度成蹊大学学位授与式を次のとおり行います。

●日　時　三月十九日（水）十時より

●場　所　大学体育館

―ご来場の皆さまへ―

式場が手狭なため、式場への入場は修了者・卒業者ご本人に限らせていただいております。このため、ご来校の際には、モニター放送により式の様子を別会場でご覧いただくことになりますのであらかじめご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

モニター会場は、大学四号館ホール他です。

（お車でのご来校はご遠慮願います）

中学・高等学校の近況

中学校体育祭

九月十四日に中学校体育祭を開催しました。不安定な天気が続き開催が危ぶまれましたが、当日は快晴となり、さらには気温も上昇するなか、それ以上の熱戦が繰り広げられました。秋の体育祭は全体種目として大玉転がし、二人三脚、騎馬戦を行い、学年では一年生からそれぞれいかだ送り、棒引き、大ムカデを行いました。応援合戦は一年生から三年生までが各クラス縦のつながりで一丸となり、事前練習の成果を発揮していました。結果はA組が種目全体・応援合戦ともに優勝し、完全優勝を果たしました。

高等学校体育大会

高等学校体育大会は天候の関係で、九月十三日、十八日の二日間で開催されました。バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、ドッジボール、卓球、フットサル、サッカーなどの種目が行われ、大きな怪我もなくクラス対抗で熱戦を繰り広げ、無事終了しました。

中学校遠足

中学校の遠足は秋晴れのなか、十月三十一日に予定通りに行われました。一年生は武蔵五日市の秋川橋河川公園バーベキューランドでクラスの中で班分けをし、カレーライスを作りました。コロッケやチーズを乗せたりして各班が工夫を凝らしてカレー作りに挑戦しました。二年生は三年生での修学旅行を目標に、自分たちで計画を立てて班ごとに集団で行動し、鎌倉・北鎌倉を散策しました。三年生は青梅の川井キャンプ場でクラスの中で班分けをし、鍋料理、炊き込みご飯、デザート作りに挑戦しました。

躍祭（中高文化祭）

中高文化祭は九月二十九日、三十日の二日間にわたって催されました。中高生は夏休み前から準備をし、クラスや団体によっては夏休み中も活動してきました。あいにくの雨にも関わらず多くの来場者でどこの会場も大盛況でした。校舎の新築工事の関係で会場に制限はありましたが、高等学校は第二体育館でクラス展や有志展等を発表し、中学校ＨＲ棟では文化部の展示や学年展を、大教室では中高のウインドオーケストラ、ストリングス、ダンス、演劇部等が日頃の成果を発揮しました。中学校前庭では雨のなか、三年生の学年展としてソーラン節を踊り、文化祭を盛り上げました。文化祭の最後を飾る打ち上げ花火が雨のため中止になりましたが、体育館で行われた後夜祭（高等学校）ではクラブや有志による発表が行われ、多くの生徒が参加し盛り上がりました。

高等学校生徒会　あしなが募金

十月二十八日、高等学校生徒会を中心に吉祥寺駅で「あしなが募金活動」に参加しました。ここでは二年生の木村文さんのレポートを紹介します。

二年Ｅ組　木村文

私は今までボランティアというものに興味はあまりなかったのですが、今回あしながと「あしながPウォーク10」に参加することで募金が必要な人たちの現状を知ることができました。今、日本や世界中に学びたいのにさまざまな事情で学べない人、そのせいで夢を諦めなければいけない人が大勢いるのです。それなのに何もしなくても学べるのに何もやろうとしない自分がとても恥ずかしくなり、学びたいのに学べない人たちにとても失礼な態度をとっていることに気づきました。そんな人たちが少しでも自分のやりたいことがやれるようにしたいと思いました。でも実際、今の私ができることは募金活動くらいしかなく、お金をたくさん持っているわけでもないので大きなことはできないのですが、小さなことでもそれが重なれば大きくなるので地道に募金を続けたいなと思いました。ボランティアというものは一つひとつは小さいけれどやれば確かに誰かの為になっているんだなあということが理解できました。この一回だけで終わらせず継続してやっていきたいと思います。

中国高校生学校交流

日中二十一世紀交流事業の一環として中国の高校生十三名が十一月十五日、十六日の二日間来校しました。十五日の歓迎式では記念品の交換を行い、成蹊側からダンス部と吹奏楽部が、中国の高校生が民族舞踊のパフォーマンスを披露しました。ここではホストを引き受けていただいた楯崎さんのレポートを紹介します。

中国人高校生を迎えて

二年Ｈ組　楯崎 美和

中国高校生訪日団第六陣と成蹊高校との交流のなかで、私はホストファミリーとして一人の女子高校生を迎えました。彼女は内モンゴル自治区出身の金珠さんという優しい笑顔が印象的な女の子でした。私にとってホストになることは初めての経験でしたのでどのように接して良いのか、当初不安もありました。しかし、彼女の明るくフレンドリーな雰囲気に出会い、そんな戸惑いもすぐに消えていきました。

大教室での歓迎会を終え、モンゴルの民族衣裳（正装）を身に纏った金珠さんと一緒に帰宅しました。玄関で出迎えた私の家族は、彼女の華やかな衣裳に大変感激している様子でした。彼女は事前に勉強してきたノートを片手に、日本語で一生懸命挨拶をしてくれました。内モンゴルからのお土産として、小型の馬頭琴（マトゥチン）、印材として使われる巴林石、シルクのショールなどをいただき、私たちからは浴衣を贈りました。着物に初めて袖を通した金珠さんはとても似合っていました。お互いの国の民族衣裳を交換して着て撮った写真は、私にとって思い出に残る一枚となりました。

夕食にはみんなで楽しく囲める日本の料理として、母がすき焼きを用意し、金珠さんと一緒に食卓を囲みました。その後は、アジア地図を広げての日中友好勉強会となりました。第二外国語として中国語を勉強中の姉が中心となり、中国語、英語、そして漢字での筆談は楽しく充実したものとなりました。チンギス・ハンをとても尊敬しているようで、特にそのことについて熱心に話してくれました。一方で、私たちは日本語の挨拶の一つである「どういたしまして」を繰り返し彼女に教えました。それを覚えたときの金珠さんは素直に嬉しそうで、私まで嬉しくなりました。

翌朝登校する際、「大変お世話になりまして、有難うございました」と日本語で挨拶してくれたときは、家族も私も胸が熱くなり、涙が溢れました。その光景は、まるであるテレビ番組の異国文化体験記のようでした。短い時間でしたが、今回ホストファミリーとして私自身たくさんの貴重な体験をさせてもらいました。

前日に東京プリンスホテルで行われたレセプションでは、私が所属するダンス部がダンスを披露する機会をいただき、私も大好きな仲間たちと思い出深い経験をすることができたことは大変嬉しく思います。

今回人と人とのコミュニケーションは言葉だけでなく、表情や身振り手振りで十分通じ合えることを改めて知りました。もしかしたら、いつの日か再会できるかもしれないし、もう二度と会うことができないかもしれないけれど、一緒に過ごした時間はいつまでも私たちそれぞれの素敵な思い出として残ることでしょう。「一期一会」この言葉の重みを実感することができた体験でした。

運動部・文化部の活躍

●中学野球部
東京都中学野球秋季大会　ベスト 16

●中学男子硬式庭球部
関東中学校新人テニス選手権大会
〈団体〉 優勝
東京都中学校新人テニス選手権大会
〈団体〉 優勝
〈個人〉 シングルス　第３位　富山竜帆
〈個人〉 ダブルス　準優勝　千田航平・溝間奎輔
第３位　富山竜帆・志村太和
東京都私立中学高等学校テニス選手権大会
〈団体〉 中学Ａチーム　ベスト８

●中学女子硬式庭球部
関東中学校新人テニス選手権大会
〈団体〉 第５位
東京都中学校新人テニス選手権大会
〈団体〉 第５位
〈個人〉 シングルス　第５位　池田玲
ダブルス　第５位　池田玲・生方沙紀
都私立中学高等学校テニス選手権大会
〈団体〉 中学Ａチーム　ベスト 16

●中学サッカー部
東京都中学校サッカー新人大会出場

●中学ラグビー部
第 27 回東日本中学生大会出場

●高校硬式庭球部
関東選抜東京予選会
〈団体〉 男子　東京都４位
女子　東京都９位
東京都私立中学高等学校テニス選手権大会
〈団体〉 男子中高Ａチーム　準優勝
男子高校Ｂチーム　第３位
女子高校Ａチーム　第５位

小学校の近況

文化祭
「輝かそう みんなで創った協力の証」

一学期の運動会、そして二学期の文化祭は、成蹊小学校の子どもたちが日頃の学習の成果を発表する重要な公開行事となっています。

十月十三日と十四日に行われた今回の文化祭のスローガンは「輝かそう　みんなで創った協力の証」でした。これは高学年の学校桃の会、代表委員会の子どもたちが、各学級から持ち寄った案を討議して一つのスローガンに決定したものです。

このスローガン作りは、一九七七年に始まり、三十一年の歴史を持つ伝統的な活動となりました。

小学校の文化祭は、一、三、五年生の展示発表と二、四、六年生の舞台発表を柱にして、理科や美術科の学習作品展示、太鼓部やブラスバンド部の演奏などが加わります。今回の特色は、舞台発表が全学年とも、学年で一本の発表となったことでした。

学年の四学級がそれぞれ個性豊かに演じる舞台も楽しいものですが、学年が一つになって、百人を超える子どもたちと学年の先生方とで一つの作品を作り上げた舞台には迫力がありましたし、いずれの学年も感動的な発表となりました。

そして展示発表も、学年テーマをしっかり受けとめた一人ひとりの熱心な取り組みが、原稿用紙や模造紙に書かれた一文字一文字の丁寧さや作品の仕上がりの中で読み取れるものとなりました。

文化祭プログラムから概要を紹介します。

●一年生展示
「みんなのあそびば！」

私たちは「楽しい遊び場」のことを考えてみました。成蹊の中にある遊び場、遠足で遊んだ昭和記念公園の子どもの森、家の近くにある公園の遊び場、箱根の大自然の中での自由な遊び、いろんな遊び場がある中で、私たちはいつも友達と楽しく遊んでいます。

もっともっと、子どもの考えられる子どものための夢のある遊び場はないものか、創れないものかと、私たちは考えていきました。一人ひとりの考えだけでなく、みんなで考えを出し合って、みんなで手で遊び場を創っていきました。会場には私たちの創った楽しい遊びの世界がひろがっています。ぜひ、私たちの「夢の遊び場」をご覧ください。

●二年生舞台
「三まいのおふだ」（日本昔話　脚本・二年生のみんな）

山寺の小ぞうさんが、山にくりひろいに行きたいと言います。こわい山んばが出る山だと、おしょうさんがとめるのもききません。おしょうさんは、しかたなく、「もしも」の時のために三まいのおふだをわたしました。小ぞうさんは、ぶじに村に帰ってこられるでしょうか。

二年生は「シュプレヒコール（呼びかけ）げき」にちょうせんします。学年全員で、言葉を伝えることを中心に、昔話の世界を表現します。

●三年生展示
「わたしたちの『ひとしずく』」

ハチドリのクリキンディーのお話（『ハチドリのひとしずく』辻信一／監修、光文社刊）を知っていますか？体長が五㎝ほどの小さな鳥ですが、山火事を消そうと、小さな口ばしでひとしずくの水を運び続けたハチドリのお話です。大きな山火事に立ち向かうクリキンディーのひとしずくは小さいものですが、自分にできることを続ける行動は見習いたいことです。今、地球の温暖化からさまざまな問題が起こっています。地球環境を守るためのさまざまな工夫も調べ、自分たちでできることと合わせ、グループでまとめました。

また、成蹊にある草や木で作ったモビール、箱根の写真、美術で製作したコリントゲーム、生活のアイディアから作った発明工夫の作品も展示します。お楽しみください。

●四年生舞台
「ノラとねこ」（原作・森 真二）

飼い猫としてご主人にかわいがられる猫、ある日とつぜん捨てられてしまった猫、ギャング団に入って悪さばっかりはたらいている猫、ご主人のおもちゃにされている犬…町には、いろんな猫や犬たちがいます。

「このまま、ご主人に甘えてばかりでいいのかな」飼い猫のノラは、ある事件をきっかけに考えます。

歌あり踊りあり、四年生全員が舞台にあがって、思い切り体を使って表現します。

●五年生展示
「発見！発見！裏磐梯　―五年生の夏の学校―」

五年前、五年生の夏の学校の開設場所は、志賀高原から福島県の裏磐梯に移りました。今年度の五年生も変更なく、この裏磐梯で夏の学校を実施しました。七月十九日（木）～二十四日（火）の梅雨明け間近の時期で、時折降雨に見舞われましたが、さまざまな貴重な体験学習ができました。

今回の文化祭では、それらのいくつかを整理し、皆さんにご覧いただきたいと思います。自動車工場見学、喜多方での農業体験、会津蒔絵と赤ベコ絵付けの体験を含め、磐梯朝日国立公園内にある豊かで奥深い自然も一緒に味わってください。

発明工夫の作品も展示します。日頃練り抜いたアイディアを、夏休みに制作した力作揃いです。合わせてお楽しみください。

●六年生舞台
「青い鳥をさがして」（脚本・六年生のみんな）

みなさんは、メーテルリンクの「青い鳥」のお話、ご存じでしょうか。物語が始まるのはクリスマス前夜。チルチルとミチルは、「光」「イヌ」「ネコ」などと共に青い鳥さがしの旅に出かけ、いろいろな国を旅します。結局青い鳥を捕まえられずに家に戻ってきましたが、そこは、今までと同じ家であるにもかかわらず、すべてが美しくすばらしいものに見えたというお話です。成蹊の六年生たちも青い鳥さがしの旅に出ます。どのようなところにさがしにいくのでしょう？そして、どんな青い鳥をみつけるのでしょうか。

このほか、理科展では四、六年生の「発明くふう作品展」、美術展では二年生の「ステンド・グラス」、四年生の「一版多色木版画・額縁付き浮き出し影刻」、五年生の「ランプ・シェード」、六年生の「建築模型」などの力作が展示されました。

また、太鼓部やブラスバンド部の演奏も、日頃の練習成果を見事に発揮することができました。

二日間約千四百名の外部参観者に対する受付業務を積極的に引き受けてくださったPTA総務部の皆さまに、心から感謝申し上げます。

東京都児童生徒発明くふう展

子どもたちが「発明工夫」と呼んでいる制作の学習は、三年生以上の理科学習の題材として年間カリキュラムの中に位置づけられています。

また、理科部教員が中心となって小学校内で優れた作品を選び、一九五七年から開始された東京都児童生徒発明くふう展に出品してきました。当時理科専科であった旧職員の木村定司先生の時代からの参加という長い歴史を持っています。一九七〇年からは三十八年連続の出品となり、「学校賞」をはじめとした多くの賞を頂戴してきました。

小学校卒業生の方々も、夏休み中の課題制作ということで、ご家庭の協力を得たり、一人で試行錯誤したりといった懐かしい制作活動を思い出していただけることと思います。

さて、今回は三年生以上の約四百七十点から十五点を第五十一回東京都児童生徒発明くふう展に出品しました。今回の受賞は左記のとおりです。

〈特別賞〉
・毎日新聞社賞（五年女子）
・毎日小学生新聞賞（五年男子）
・東京文具工業連盟会長賞（五年女子）
・発明協会東京支部賞吉田発明記念（四年男子）
・発明協会東京支部賞蟻川発明記念（六年女子）
・発明協会東京支部賞梶原発明記念（五年女子）

〈優秀賞〉
（四年男子・五年男子・六年男子）

〈入　選〉
（三年女子・五年女子・六年男子・六年女子）

なお、特別賞の六作品は、第六十六回全日本学生児童発明くふう展に推薦出展されました。

校内における救急備品の配置

小学校では、子どもたちや教職員の救急時に対応できる備品の設置を検討してきました。

すでに小学校事務室前には、ＡＥＤ（自動体外式除細動器）が整備されています。これは学園の全体計画に基づく配置ですが、小学校として、新たに東京都私学財団の助成金交付事業を受け、小学校体育館内に移動式のＡＥＤを設置しました。

また、傷病者の搬送用に中央館と体育館の入口二か所に格納庫入りの担架を配備し、災害や緊急事態など、万一の場合の備えとしました。

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金 寄付申込者ご芳名

第18回 2007年9月1日～2007年10月31日ご入金分

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、多数の皆さま方から心温まるご支援をいただきました。
ここに第十八回のご芳名を発表させていただきます。
ご協力を賜りました方々のご芳志に厚く御礼申し上げます。

掲載要項

- 掲載区分は、①法人、②団体・その他、③個人の三区分で、個人については、在学生父母・同窓生（同窓会別）・篤志家・教職員（学園関係者を含む）に分類しています。
- 原則として、掲載区分・ご芳名等は、申込書に記入された表記通りとさせていただいております。
- 匿名を希望された方々のご芳名は除かせていただいております。

寄付入金状況（2007年10月31日現在） 単位（千円）

区分	入金件数※	寄付金額
在校生父母	1,271	140,809
同窓生	3,562	162,703
教職員・学園関係者	1,820	72,874
法人・団体その他	570	446,739
合　計	7,223	823,125
上記の他お申込額		548,790
総合計		2,553,399

※入金件数には分割納入金が重複しています。
※総合計には2003年度以降の教育充実資金を含みます。

法人

＊株式会社岡村製作所　様
＊山九株式会社　様
＊三建設備工業株式会社　様
＊新菱冷熱工業株式会社　様
ニチアス株式会社　様
＊株式会社日さく　様
モリス株式会社　様

団体・その他

きそば　中清（清田　治）　様
成蹊会東海支部　様
成蹊小学校国際学級 大塚クラス同窓会　様
成蹊大学卒業30周年（昭和53年卒）記念同窓会　様

個人

在学生父母

荻野　順次郎　様
髙橋　誠　様
徳野　基晴　様
松廣　陽之　様
矢崎　東洋　様
吉永　和弥　様
戸田　潤一郎　様
橋本　絹枝　様
遠藤　美光　様
大村　治彦　様
高田　美雄　様
平野　一郎　様
末松　薫　様

同窓生

高等学校（旧制）同窓会

福富　禮治郎　様
＊山田　正仁　様

やよい会（女学校）

＊長岡　道子　様

政治経済学部同窓会

大竹　幸雄　様
＊香椎　健太郎　様
＊小島　明　様
髙木　文彦　様
高橋　健　様
豊田　克之　様

医歯学進学課程同窓会

＊藍原　寧　様
湯川　佳宣　様

工学部同窓会

水元　和成　様
＊結城　庸三　様

文学部同窓会

＊板橋　啓子　様

経済学部同窓会

金澤　王生　様
河上　晴一　様
佐藤　紀比古　様
＊藤谷　英輔　様
堀江　則博　様
松本　光弘　様

法学部同窓会

梅村　滋　様
小清水　宏如　様
重田　康博　様
西内　清　様
＊畑田　正樹　様
＊林　美希　様
＊結城　敬之　様

高等学校（新制）同窓会

＊上田　祥士　様
臼田　実　様
蟹江　淳　様
＊須佐　真明　様
萩原　元太　様
真家　雅彦　様

篤志家

鈴木　優子　様
野瀬　ナミ子　様

教職員

＊上原　信吾　様
＊栗田　恵輔　様
＊齋藤　徳之　様
齋藤　洋司　様
＊橋本　竹夫　様（注＊印は複数回入金者）

園部　嵩子　様
渡辺　真知　様

◎ご芳名の掲載要項は前述のとおりとなっておりますが、ご質問の多い点につきまして補足させていただきます。
皆さま方のご理解ご協力をお願いいたします。

1. 学園広報への掲載は、掲載対象期間中のご入金すべてを掲載させていただいております。したがいまして再度のご入金を賜りました場合も、その都度掲載させていただいております（自動振替・分割納入等の場合の二回目以降も同様に掲載しています）。
2. 「同窓生で在学生ご父母」「同窓生で学園教職員」のように複数の区分に該当される方の情報が正確に把握できておりませんので、自動的に複数区分に掲載することができません。お手数ですが、複数区分への掲載を希望されます方はお申し出ください。年一回発行の芳名録合本（初年度からの総合芳名録）に掲載させていただきます。

募金局からのお知らせ

〝成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金推進の集い〟を開催しました

十二月十五日（土）於 大学四号館ホールおよび大学十号館十二階ホール

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金局では、二〇〇二年十月のスタート以来、同窓生・在校生ご父母・教職員および学園関係者からなる発起人・募金委員・募金推進委員の方々のご協力の下、募金活動を続けて参りました。

このたび、各委員の皆さまにご参集いただき、「成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金推進の集い」を開催しました。この集いは、日頃の委員の方々のご尽力に対して御礼を申し上げ、募金活動の状況についてご報告申し上げるとともに、活発な意見交換や交流を通じて今後の推進活動についてご理解とご支援をいただく機会として、恒例により開催したもので、当日は九十七名の方々にご出席をいただきました。

第一部では冒頭に、メリルリンチ日本証券代表取締役社長の小林いずみ氏より、「顧みて　学生時代に育まれた力」と題したご講演をいただきました。この講演は委員の他一般にも開放され、在学生なども含めた多数の聴衆が、学生時代に積極的に挑戦して経験したこと、学んだことが、自分を支える大きな力になっていることに今になって気付かされているという小林氏のお話を、興味深く聴かせていただきました。

講演会に続いての委員総会では、はじめに募金委員会会長の岸曉理事長より、皆さまのこれまでのご支援に対する御礼と、六年目を迎えた募金活動をさらに推進し必ず目標を達成するという決意のこもった挨拶がありました。その後、社団法人成蹊会会長の相川一成様より、成蹊会の募金活動への取り組みについて心強いご挨拶をいただきました。

続いて創立一〇〇周年記念事業募金に多大なる貢献をいただいた方々に対して感謝の意を表するため、感謝状贈呈式を行い、感謝状と記念品を贈呈しました。

その後、募金実行委員会委員長の橋本竹夫専務理事より、創立一〇〇周年記念事業および募金事業の進捗状況などの報告を行いました。さらに今後の募金推進について、当日、推進の集いに先立って行われた募金委員会での検討結果に基づき、推進活動へのご協力を提案させていただきました。

第二部の懇親交流会では、はじめに募金委員会副会長の栗田恵輔成蹊大学長、谷正紀中学・高等学校長、金納善明小学校長より、皆さまの日頃のご尽力に対する御礼と各学校における創立一〇〇周年記念事業の現況についての報告がありました。

参加者の皆さまは和やかな雰囲気の中、歓談を楽しまれ、相互に交流を深められていました。最後は校歌を斉唱し、盛況のうちに終了いたしました。

成蹊学園としましては、皆さまよりお寄せいただきました貴重なご意見を活かしながら、目標達成をめざして募金活動に邁進して参りたいと存じます。引き続き皆さまのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

遺贈による寄付ご相談窓口のご紹介

遺贈とは、遺言により財産を贈与することをいい、近年、遺言を残すことへの関心が高まっています。

また、相続に関しても、慣習にとらわれない自由な相続を求める傾向にあり、教育現場への支援をすることで社会への貢献をされたいというお考えのもと、母校への遺産寄付をお考えくださる方が増えてまいりました。

これらのことは、税制改正により公益法人などへの寄付に対する税金が緩和された事も大きく影響していると考えられています。

遺産相続がスムーズに行われ、遺贈をお考えの皆さまのご遺志が確実に実現されるためには慎重なご準備が必要と思われます。そのためには専門知識の豊富な信頼できる相談者をお選びになることが必要であり、その一つとして信託銀行のご利用が注目されています。

成蹊学園では、母校への支援をお考えくださる皆さまの便宜をお図りするため、右記の信託銀行と業務提携をしております。

ご相談のお申し出をいただきました場合は、成蹊学園から下記信託銀行をご紹介させていただきます。

詳しくは募金局にお問い合わせください。

募金局　TEL.0422-37-3941

なお、信託銀行では、ご希望に従い
『**遺言信託**』…… 遺言書作成のお手伝い、遺言書の保管・管理、遺言の執行等。
『**遺産整理業務**』… 煩雑な相続手続きの代行等。
などを契約の上ご利用いただくことができます。
（相談は無料ですが、ご利用に関しては所定の費用がかかります）

◎提携信託銀行

三菱 UFJ 信託銀行・中央三井信託銀行・住友信託銀行

成蹊学園創立100周年記念事業募金

インターネット申し込みによる
クレジットカード決済をご利用ください。

インターネット申し込みによるクレジットカード決済で、寄付をしていただくことができます。
ご自宅のパソコンで簡単にお手続きできますので、ぜひともご利用ください。

1 成蹊学園トップページ（http://www.seikei.ac.jp）を開いていただき、画面右上にある「100周年記念事業募金」のボタンをクリックしてください。

2 100周年記念事業ページの左下にある「インターネットによる募金のお申し込みはこちら」のボタンをクリックしてください。

3 募金方法ページ「インターネット申し込みによるクレジットカード決済」項目の「インターネット申込み詳細」をクリックしてください。

4 「インターネット申込によるクレジットカード決済のご案内」ページが表示されますので、こちらでお手続きください。

【ご利用にあたって】

- クレジットカード決済は、個人の方のみご利用いただけます。（法人・団体でのご寄付をご希望の場合は、誠にお手数ですが募金局までお問い合わせください）
- ご寄付者名とカード名義人は同一であることが必要です。
- ご利用いただけるカードは、DC カード・VISA カード・マスターカードです。

【お問い合わせ】

成蹊学園
創立100周年記念事業募金局
TEL：0422-37-3941
Email：fund@jim.seikei.ac.jp

二〇〇七年度 就職状況について

昨年度に引続き、二〇〇七年度も企業の採用意欲は高く、リクルートワークス研究所が毎年発表している大学新卒者の有効求人倍率は、二・二四倍と十六年ぶりに二倍を超え、求人総数（推計）も九三・三万人と過去最高の水準となりました。

このような採用状況のなかで、就職希望者一五八九名（内工学研究科七十七名）の十一月一日現在の内定率は、昨年と同水準の八三・一％となっています。

内定状況を見てみますと、文系では今年度も金融業界への内定者の割合が、男女とも高くなっております。その一方で、文系男子では、アサヒビール、国分、住友不動産、丸紅、読売新聞社など、業界を代表する企業にも幅広く内定しています。文系女子では、大手メーカーへの女子総合職の内定も目立ち、資生堂、シャープ、住友スリーエム、東芝、三菱電機などに内定しています。

また、工学部・工学研究科の学生も、キヤノン、NEC、資生堂、東芝、日産自動車、日立製作所、本田技研工業、三菱重工業、三菱電機などの大手メーカーをはじめ、数多くの優良企業に内定しており、堅実に実績を積み重ねています。

主な内定先企業は下表のとおりです。

（キャリア支援センター）

おもな内定企業一覧（2007 年 11 月 10 日現在）

企業名	企業計	(内女子)	内訳 文系学部	(内女子)	工学部（大学院含む）	(内女子)
みずほ銀行	44	(36)	40	(32)	4	(4)
東京海上日動火災保険	31	(29)	31	(29)		
損害保険ジャパン	30	(22)	29	(22)	1	
三井住友海上火災保険	28	(20)	28	(20)		
日本生命保険	18	(14)	18	(14)		
三井住友銀行	17	(12)	16	(12)	1	
三菱東京UFJ銀行	17	(14)	17	(14)		
三菱電機ビルテクノサービス	12		10		2	
大和証券グループ本社	11	(10)	10	(9)	1	(1)
東京海上日動あんしん生命保険	10	(7)	9	(7)	1	
みずほ信託銀行	10	(9)	10	(9)		
三井住友ファイナンス&リース	10	(8)	10	(8)		
オリックス	9	(9)	9	(9)		
八千代銀行	8	(6)	8	(6)		
大同生命保険	7	(6)	7	(6)		
凸版印刷	7		4		3	
NECソフト	6	(1)	1	(1)	5	
住友信託銀行	6	(5)	6	(5)		
大日本印刷	6		3		3	
東京海上日動システムズ	6	(2)	1		5	(2)
JR東日本	6	(1)	2	(1)	4	
千葉銀行	5	(2)	5	(2)		
東芝	5	(2)	1	(1)	4	(1)
本田技研工業	5	(1)	1		4	(1)
三菱電機	5	(2)	1	(1)	4	(1)
あいおい損害保険	4	(1)	4	(1)		
旭化成ホームズ	4	(1)	4	(1)		
アメリカンファミリー	4	(3)	4	(3)		
伊勢丹	4	(3)	4	(3)		
キヤノン	4				4	
スルガ銀行	4	(1)	4	(1)		
中央三井信託銀行	4	(3)	4	(3)		
帝国データバンク	4	(2)	3	(1)	1	(1)
東京都民銀行	4	(2)	4	(2)		
NEC	4	(1)	1	(1)	3	
日本マスタートラスト信託銀行	4	(4)	4	(4)		
野村證券	4	(3)	4	(3)		
NTT東日本	4				4	
三井住友海上きらめき生命保険	4	(2)	4	(2)		
三井生命保険	4	(4)	3	(3)	1	(1)
三菱商事マシナリ	4	(4)	4	(4)		
三菱UFJ不動産販売	4	(3)	3	(3)	1	
横河電機	4				4	
沖電気工業	3	(1)	2	(1)	1	
小糸製作所	3				3	

企業名	企業計	(内女子)	内訳 文系学部	(内女子)	工学部（大学院含む）	(内女子)
JTB首都圏	3	(2)	3	(2)		
資生堂	3	(2)	2	(1)	1	(1)
清水建設	3		1		2	
商工組合中央金庫	3	(2)	3	(2)		
城北信用金庫	3	(2)	3	(2)		
新日本製鐵	3	(3)	3	(3)		
第一生命保険	3	(3)	3	(3)		
ニコン	3				3	
日本興亜損害保険	3	(1)	3	(1)		
日立製作所	3	(1)	2	(1)	1	
みずほ情報総研	3	(1)	1	(1)	2	
三井住友海上システムズ	3	(1)	3	(1)		
三井不動産販売	3		3			
三井不動産レジデンシャル	3	(3)	3	(3)		
三井リース事業	3	(2)	3	(2)		
三菱重工業	3				3	
三菱総研DCS	3	(1)	1	(1)	2	
三菱UFJ信託銀行	3	(3)	3	(3)		
村田製作所	3	(2)	1	(1)	2	(1)
明治安田生命保険	3	(1)	2	(1)	1	
山武	3				3	
横浜銀行	3	(1)	3	(1)		
菱食	3	(2)	3	(2)		
NTTデータ	2		1		1	
大林組	2	(1)	2	(1)		
キーエンス	2				2	
キヤノンマーケティングジャパン	2		1		1	
ぎょうせい	2	(2)	2	(2)		
栗田工業	2	(1)			2	(1)
警視庁	2	(1)	2	(1)		
京葉銀行	2	(1)	2	(1)		
コーセー	2	(1)	1		1	(1)
国分	2		2			
国家公務員	2		2			
十六銀行	2		2			
城南信用金庫	2		2			
住友不動産	2	(1)	2	(1)		
積水ハウス	2	(1)	1	(1)	1	
全日本空輸	2	(1)	2	(1)		
髙島屋	2		2			
JR東海	2		1		1	
東京特別区	2		2			
日産自動車	2				2	
日本紙パルプ商事	2		2			
日本通運［海運事業部］	2	(2)	2	(2)		

企業名	企業計	(内女子)	内訳 文系学部	(内女子)	工学部（大学院含む）	(内女子)
日本通運［航空事業部］	2		2			
日本トラスティ・サービス信託銀行	2	(1)	2	(1)		
野村総合研究所	2				2	
阪和興業	2	(2)	2	(2)		
日野自動車	2				2	
富士重工業	2		1		1	
三菱マテリアル	2		1		1	
読売新聞東京本社	2		2			
和光	2	(1)	2	(1)		
秋田銀行	1		1			
アサヒビール	1		1			
出光興産	1	(1)			1	(1)
川崎重工業	1		1			
七十七銀行	1		1			
シャープ	1	(1)	1	(1)		
主婦と生活社	1	(1)	1	(1)		
住友スリーエム	1	(1)	1	(1)		
電通	1		1			
東急エージェンシー	1	(1)	1	(1)		
東京電力	1				1	
東京都庁	1				1	
TOTO	1				1	
トーハン	1		1			
日本銀行	1	(1)	1	(1)		
NHK（日本放送協会）	1		1			
日本アイ・ビー・エム	1	(1)	1	(1)		
日本総合研究所	1				1	
JT（日本たばこ産業）	1		1			
日本中央競馬会	1		1			
博報堂	1		1			
日立化成工業	1				1	
日立金属	1		1			
松下電工	1		1			
丸紅	1		1			
三鷹市役所	1		1			
三井物産	1	(1)	1	(1)		
三菱鉱石輸送	1	(1)	1	(1)		
三菱自動車工業	1		1			
三菱倉庫	1		1			
武蔵野市役所	1		1			
明治製菓	1		1			
ヤクルト本社	1		1			
安田不動産	1		1			
ヤマハ	1		1			
郵船航空サービス	1	(1)	1	(1)		